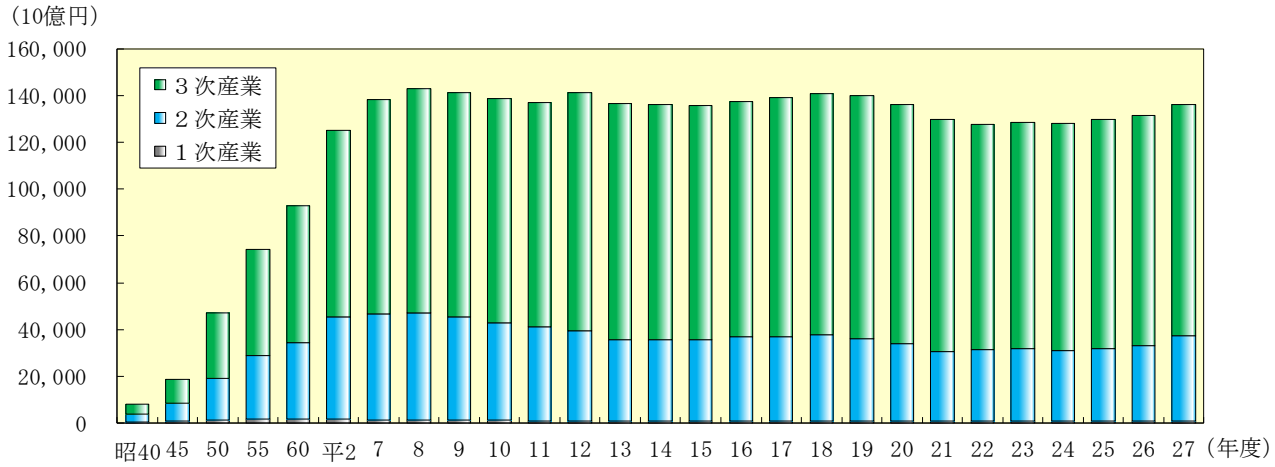
2 産業の現況

2.1 関係13府県の産業

関係 13 府県の昭和 40 年度から平成 27 年度の県内総生産額の推移を図 2－1 に示す。

平成 27 年度の関係 13 府県の県内総生産額は、1,376,673 億円であった。昭和 40 年度からこの 50 年間ほどで額にして約 130 兆円，約 17 倍に増加している。昭和 40 年度から平成２年度までの増加が著しく、その後、ほぼ横ばいで推移している。

産業別構成比は、一次産業は昭和 50 年度から、二次産業は平成 8 年度から減少傾向にあり、その分、三次産業の構成比が増加傾向である。平成 27 年度の関係 13 府県の産業別生産額構成比をみると一次産業が 0.6%、二次産業が 26.9%、三次産業が 72.5%となっている。



注）昭和 40 年度以降、45 年度は県内純生産額
出典：昭和 45 年度以前：「県民所得統計年報（内閣府編）」
　　昭和 50 年度以降：「県民経済計算年報（内閣府編）」

図 2－1 関係 13 府県の県内総生産額の推移

表 2－1 関係 13 府県の県内総生産額

（単位：10億円）

府県名＼年度	昭和40	45	50	55	60	平成２	7	12	17	22	26	27
京　都　府	599	1,352	3,061	5,198	6,851	8,588	9,455	9,933	9,895	9,373	10,054	10,345
大　阪　府	2,612	6,016	13,676	21,423	26,162	36,524	40,125	40,936	38,570	36,384	37,934	39,107
兵　庫　県	1,219	2,745	6,494	10,225	13,232	18,291	20,638	19,933	19,141	18,346	19,788	20,495
奈　良　県	156	370	973	1,594	2,260	3,244	3,574	3,868	3,762	3,552	3,541	3,577
和 歌 山 県	273	530	1,324	1,925	2,401	2,836	3,143	3,306	3,516	3,503	3,579	3,527
岡　山　県	436	1,088	2,448	3,850	5,064	6,647	7,359	7,111	7,244	7,065	7,243	7,788
広　島　県	635	1,515	3,991	6,042	7,540	10,244	10,963	11,185	11,996	10,808	11,238	11,941
山　口　県	383	821	2,073	3,154	3,962	5,021	5,559	5,733	5,841	5,752	5,969	5,870
徳　島　県	167	367	855	1,345	1,636	2,220	2,552	2,628	2,719	2,820	3,012	3,084
香　川　県	199	481	1,247	2,001	2,367	3,254	3,723	3,786	3,656	3,571	3,672	3,778
愛　媛　県	340	737	1,652	2,538	3,269	4,148	4,845	4,998	4,845	4,888	4,756	4,916
福　岡　県	961	2,316	5,741	9,666	11,185	14,945	16,790	17,445	17,962	18,042	18,112	18,861
大　分　県	223	487	1,262	2,254	2,682	3,641	4,205	4,595	4,436	4,293	4,143	4,378
関係13府県計	8,203	18,825	44,798	71,215	88,611	119,602	132,931	135,456	133,583	128,397	133,041	137,667

注）昭和 40 年度以降、45 年度は県内純生産額
出典：昭和 45 年度以前：「県民所得統計年報（内閣府編）」
　　昭和 50 年度以降：「県民経済計算年報（内閣府編）」

表 2－2 関係 13 府県の産業別生産額構成比

（単位：%）

府県名＼年度	昭和40			45			50			55			60			平成2		
	1次産業	2次産業	3次産業	1次産業	2次産業	3次産業	1次産業	2次産業	3次産業	1次産業	2次産業	3次産業	1次産業	2次産業	3次産業	1次産業	2次産業	3次産業
京都府	4.3	38.1	57.6	2.4	40.1	57.5	2.4	36.7	60.9	1.5	35.6	63.0	1.1	36.2	62.7	0.7	34.3	65.0
大阪府	0.8	43.6	55.6	0.4	46.2	53.4	0.3	36.8	62.9	0.2	35.4	64.4	0.2	33.3	66.5	0.1	30.9	69.0
兵庫県	4.7	49.8	45.5	3.0	48.9	48.1	2.4	40.9	56.7	1.7	43.7	54.6	1.3	40.3	58.3	1.0	41.3	57.7
奈良県	18.4	30.6	51.0	10.6	41.8	47.6	6.9	38.6	54.6	4.7	42.3	53.0	2.9	41.0	56.2	2.0	40.7	57.4
和歌山県	16.2	39.6	44.2	13.3	39.8	46.9	6.7	46.1	47.2	5.5	41.3	53.2	4.7	40.0	55.3	4.9	38.1	56.9
岡山県	12.1	37.7	50.2	6.6	45.1	48.3	5.5	42.8	51.8	3.4	42.0	54.6	2.7	42.5	54.8	1.9	45.0	53.1
広島県	9.5	41.0	49.5	5.2	40.4	54.4	3.3	35.9	60.8	2.0	35.1	62.9	1.8	31.7	66.5	1.2	35.6	63.2
山口県	14.5	37.5	48.0	9.9	43.4	46.7	6.9	40.7	52.4	3.9	39.6	56.5	3.1	38.3	58.6	2.4	40.9	56.7
徳島県	20.7	22.6	56.7	16.0	29.8	54.2	12.5	34.2	53.4	7.7	34.1	58.2	6.7	31.6	61.7	4.8	35.1	60.1
香川県	15.6	27.5	56.9	9.2	36.2	54.6	6.7	35.1	58.3	4.7	34.9	60.4	4.0	33.4	62.5	2.8	32.8	64.4
愛媛県	17.1	33.9	49.0	12.9	37.3	49.8	9.5	41.8	48.7	7.1	38.5	54.4	6.3	35.8	57.9	4.9	37.1	58.0
福岡県	8.7	33.4	57.9	5.6	35.0	59.4	3.9	31.1	65.1	2.3	30.8	66.9	2.1	28.7	69.2	1.4	28.9	69.7
大分県	22.6	25.4	52.0	13.9	31.2	54.9	10.3	30.0	59.7	6.7	37.2	56.1	6.1	33.6	60.3	4.8	38.4	56.9
関係13府県計	7.4	40.0	52.6	4.7	42.6	52.7	3.4	37.3	59.3	2.2	36.9	60.9	1.9	35.0	63.1	1.4	35.0	63.6

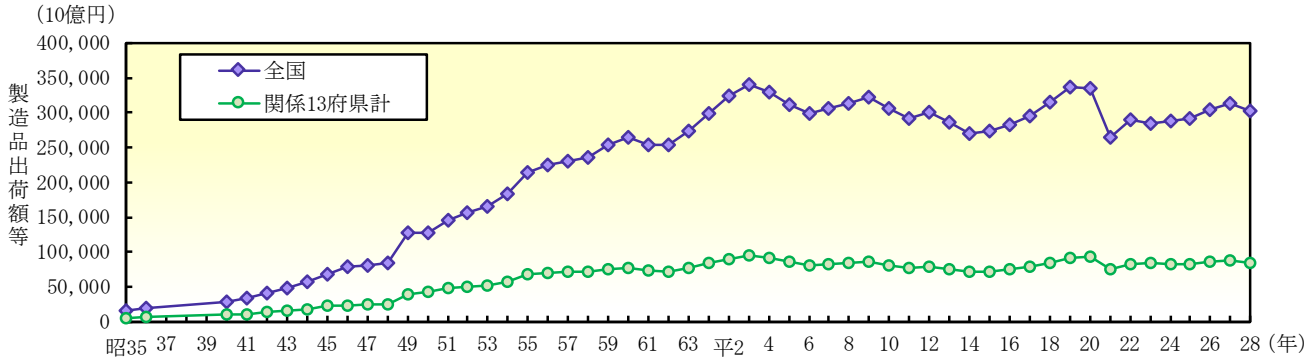
府県名＼年度	7			12			17			22			26			27		
	1次産業	2次産業	3次産業	1次産業	2次産業	3次産業	1次産業	2次産業	3次産業	1次産業	2次産業	3次産業	1次産業	2次産業	3次産業	1次産業	2次産業	3次産業
京都府	0.6	32.1	67.3	0.6	30.0	69.4	0.5	26.7	72.8	0.4	22.9	76.7	0.4	26.7	72.9	0.4	31.0	68.6
大阪府	0.1	26.5	73.4	0.1	20.7	79.2	0.1	20.9	79.0	0.1	18.7	81.2	0.1	18.6	81.3	0.1	21.7	78.2
兵庫県	0.8	43.2	56.0	0.7	34.8	64.5	0.5	28.7	70.8	0.6	26.5	72.9	0.5	27.4	72.1	0.5	28.7	70.8
奈良県	1.6	33.1	65.3	1.0	28.3	70.7	0.9	25.2	73.9	0.6	18.3	81.1	0.6	21.3	78.1	0.6	22.9	76.5
和歌山県	4.3	36.8	58.9	3.2	34.0	62.8	2.2	34.8	63.0	1.9	32.5	65.6	1.8	32.5	65.7	2.1	31.8	66.1
岡山県	1.5	43.9	54.6	1.2	33.8	65.0	1.1	33.8	65.1	1.0	30.5	68.5	1.0	30.8	68.2	0.9	35.1	64.0
広島県	1.1	31.9	67.1	0.8	27.7	71.5	0.7	30.8	68.5	0.8	26.8	72.4	0.7	28.9	70.4	0.6	32.8	66.6
山口県	1.8	39.2	59.0	1.2	35.9	62.9	1.0	36.6	62.4	0.9	36.5	62.6	0.6	38.8	60.6	0.7	36.5	62.8
徳島県	3.7	34.7	61.6	2.9	30.6	66.5	2.5	30.0	67.5	2.1	31.1	66.8	1.9	33.0	65.1	2.0	33.0	65.0
香川県	2.0	29.8	68.2	1.6	25.2	73.2	1.6	22.4	76.0	1.6	22.5	75.9	1.2	24.4	74.4	1.4	26.7	71.9
愛媛県	3.8	36.2	60.0	2.8	30.6	66.6	2.4	26.1	71.5	2.2	24.8	73.0	1.9	25.2	72.9	1.9	29.2	68.9
福岡県	1.1	26.1	72.8	0.9	22.5	76.6	0.9	20.0	79.1	0.8	21.2	78.0	0.7	19.4	79.9	0.7	20.7	78.6
大分県	3.7	37.4	58.9	2.7	34.4	62.9	2.3	30.1	67.6	2.2	29.0	68.8	2.2	29.2	68.6	2.2	29.8	68.0
関係13府県計	1.1	32.7	66.2	0.9	27.2	71.9	0.8	25.8	73.4	0.7	23.9	75.4	0.7	24.6	74.7	0.6	26.9	72.5

注）産業構成比は、県内総生産における割合。但し、昭和 40 年度、45 年度は県内純生産における割合。
　　それぞれの構成比は、以下の出典をもとに各府県各年度での構成比の合計が 100%になるよう補正した。
出典：昭和 45 年度以前：「県民所得統計年報（内閣府編）」より作成
　　昭和 50 年度以降：「県民経済計算年報（内閣府編）」より作成

2.2 工業等の動向

瀬戸内海は、工業用地に適した遠浅の海岸が多く、背後に大都市を抱えていたことから工場の立地に適しており、高度経済成長期にはコンビナートの形成を軸に重化学工業化が推進された。

瀬戸内海沿岸地域における工業出荷額の全国に占める比重は低下しているものの鉄鋼業といった主要基幹産業の生産能力はなお40%以上を占めている。関係13府県における製造品出荷額等の推移を図2－2に示す。



注)1. 昭和 55 年までは従業員 1 人以上の事業場の出荷額であるが、昭和 56 年以降は 4 人以上の事業場の出荷額である。
2. 平成 6 年の兵庫県については、阪神・淡路大震災発生に伴い、被災地の一部においては調査票の回収が困難で回収されたもののみの数値。
3. 製造品出荷額等の集計項目は以下のとおりである
平成 18 年以前：製造品出荷額等＝製造品出荷額＋製造工程から出たくず及び廃物の出荷額＋加工賃収入額
平成 19 年～平成 26 年、平成 28 年：製造品出荷額等＝製造品出荷額＋製造工程から出たくず及び廃物の出荷額＋加工賃収入額＋その他の収入額（修理料収入等）
平成 27 年：製造品出荷額等＝製造品出荷額＋加工賃収入額＋製造業以外の収入額
出典：平成 26 年以前、平成 28 年：「工業統計表」（経済産業省）
平成 27 年：「経済センサス - 活動調査」（総務省・経済産業省）

図 2－2 関係 13 府県における製造品出荷額等の推移

表 2－3 関係府県別製造品出荷額等一覧表

（単位：10億円）

府県名＼年	昭和35	40	45	50	55	60	平成2	7	12	17	24	25	26	27	28
全国計	15,579	29,489	69,035	127,521	214,700	265,321	323,373	306,030	300,478	295,346	288,728	292,092	305,140	313,129	302,036
京都府	332	616	1,430	2,395	3,903	5,119	6,289	6,014	5,886	4,870	4,646	4,561	4,815	5,322	5,449
大阪府	2,096	3,590	7,834	12,266	19,052	22,042	24,553	20,889	18,020	16,302	16,023	16,024	16,529	16,686	15,820
兵庫県	1,156	1,972	4,394	7,467	11,211	12,958	15,424	14,403	14,070	13,478	14,347	14,027	14,888	15,446	15,105
奈良県	58	129	422	801	1,400	1,903	2,490	2,532	2,418	2,156	1,758	1,848	1,897	1,845	1,819
和歌山県	201	388	733	1,837	2,620	2,613	2,501	2,256	2,265	2,780	2,867	2,972	2,995	2,648	2,613
岡山県	232	509	1,465	3,280	5,757	6,602	6,868	6,863	6,370	7,296	7,628	7,674	8,256	7,789	7,092
広島県	387	846	2,029	4,017	6,005	6,962	8,931	7,716	7,218	7,787	8,343	8,556	9,568	10,343	9,941
山口県	350	607	1,260	2,609	4,353	4,790	4,962	4,897	4,838	6,025	6,086	6,798	6,520	6,303	5,609
徳島県	55	112	275	580	918	1,170	1,455	1,465	1,505	1,606	1,680	1,712	1,784	1,698	1,700
香川県	83	171	486	1,088	1,957	2,064	2,426	2,387	2,146	2,160	2,985	2,284	2,371	2,492	2,462
愛媛県	196	370	841	1,697	2,732	3,154	3,307	3,581	3,467	3,435	4,030	4,068	4,139	4,095	3,814
福岡県	647	962	1,858	3,551	5,834	6,512	7,711	7,816	7,368	7,752	8,334	8,193	8,434	9,216	9,250
大分県	82	143	369	938	2,105	2,126	2,587	2,742	3,087	3,672	4,261	4,383	4,559	4,270	3,695
関係13府県計	5,875	10,415	23,396	42,526	67,847	78,015	89,504	83,561	78,658	79,319	82,988	83,100	86,755	88,153	84,369
(B)／(A) %	37.7	35.3	33.9	33.1	31.6	29.4	27.7	27.3	26.2	26.8	28.7	28.4	28.4	28.2	27.9

注）1. (B) / (A) %は（13 府県／全国）×100
2. 昭和 55 年までは従業員 1 人以上の事業場の出荷額であるが、昭和 60 年以降は 4 人以上の事業場の出荷額である。
3. 製造品出荷額等の集計項目は以下のとおりである。
平成 18 年以前：製造品出荷額等＝製造品出荷額＋製造工程から出たくず及び廃物の出荷額＋加工賃収入額
平成 19 年～平成 26 年、平成 28 年：製造品出荷額等＝製造品出荷額＋製造工程から出たくず及び廃物の出荷額＋加工賃収入額＋その他の収入額（修理料収入等）
平成 27 年：製造品出荷額等＝製造品出荷額＋加工賃収入額＋製造業以外の収入額
4. 数値は億単位で四捨五入してある。
出典：平成 26 年以前、平成 28 年：「工業統計表」（経済産業省）
平成 27 年：「経済センサス - 活動調査」（総務省・経済産業省）

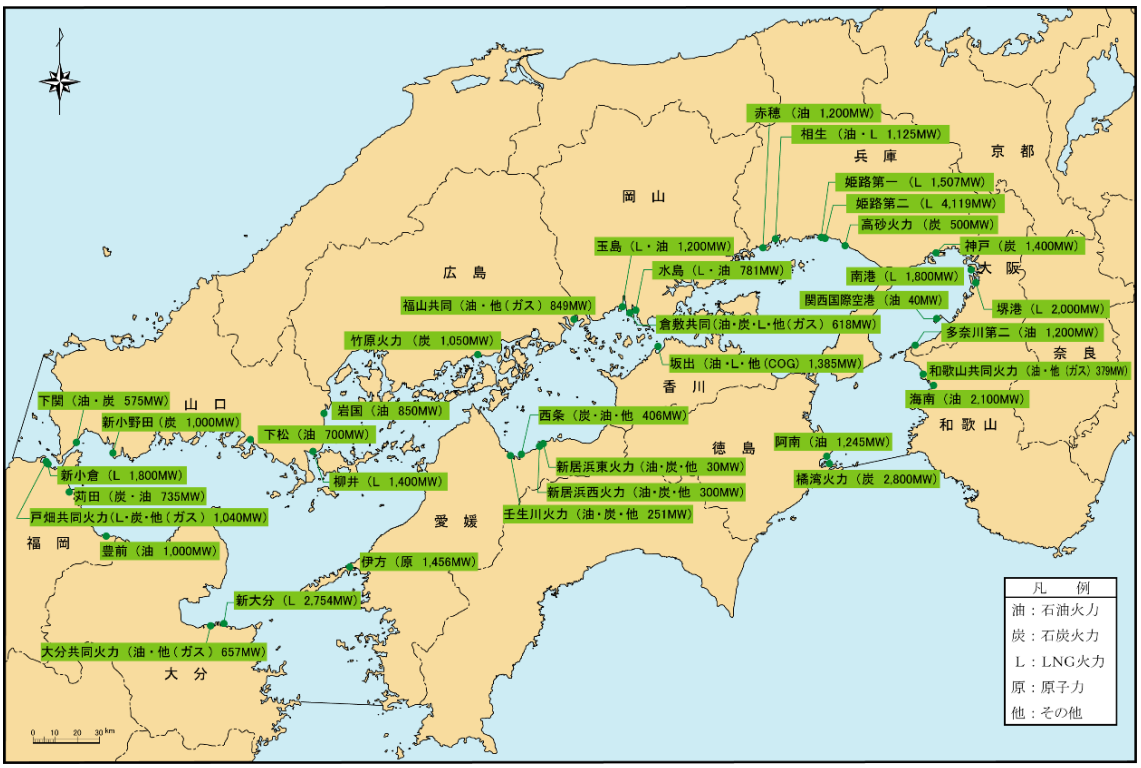
表 2－4 主要業種別製造品出荷額等一覧表

（単位：億円）

		昭和35	40	45	50	55	60	平成2	7	12	17	24	25	26	27	28
食料品	全国 (A)	19,266	38,844	71,506	151,305	225,126	291,502	330,739	347,314	348,210	323,435	339,174	344,485	355,328	373,913	382,001
	瀬戸内海関係(B)	6,245	11,590	23,283	45,678	64,397	82,203	94,468	97,544	92,055	83,034	92,787	89,466	91,259	97,615	102,164
	(B)/(A)%	32	30	33	30	29	28	29	28	26	26	27	26	26	26	27
繊維工業	全国 (A)	17,415	26,023	43,899	64,573	81,053	80,870	78,381	42,301	30,081	21,087	39,228	37,679	38,223	35,941	38,149
	瀬戸内海関係(B)	6,121	9,108	15,525	23,318	30,508	29,545	27,749	14,208	9,978	8,411	14,225	13,810	14,013	13,017	14,057
	(B)/(A)%	35	35	35	36	38	37	35	34	33	40	36	37	37	36	37
パルプ紙紙加工品	全国 (A)	6,007	11,178	22,696	42,102	67,993	73,889	88,117	84,988	79,339	70,892	68,148	67,411	69,744	71,018	72,731
	瀬戸内海関係(B)	1,894	3,489	6,914	12,722	20,104	22,098	27,117	26,495	23,006	20,940	19,512	19,411	20,358	19,880	20,886
	(B)/(A)%	32	31	30	30	30	30	31	31	29	30	29	29	29	28	29
化学工業	全国 (A)	14,636	26,140	55,402	104,381	179,787	205,524	235,029	233,625	237,622	250,271	260,379	274,092	281,230	283,269	272,496
	瀬戸内海関係(B)	6,619	12,351	23,868	44,332	71,941	80,441	87,996	84,625	84,071	89,165	92,788	96,437	99,073	99,609	96,014
	(B)/(A)%	45	47	43	42	40	39	37	36	35	36	36	35	35	35	35
石油製品石炭製品	全国 (A)	3,716	8,193	17,911	75,721	151,977	129,479	82,975	76,352	94,336	134,293	170,773	176,756	186,591	142,727	115,804
	瀬戸内海関係(B)	1,890	3,207	7,005	31,869	60,715	51,766	32,031	31,744	38,895	57,057	76,355 注4)	75,261 注4)	73,259	33,655 注5)	48,981
	(B)/(A)%	51	39	39	42	40	40	39	42	41	42	45 注4)	43 注4)	39	24 注5)	42
鉄鋼業	全国 (A)	16,517	26,836	65,648	113,063	178,956	177,543	182,687	140,727	119,273	168,964	180,121	179,053	192,022	175,527	156,693
	瀬戸内海関係(B)	8,995	14,083	34,958	60,608	87,621	87,666	85,590	65,457	55,021	80,194	86,282	87,497	93,970	86,546	76,232
	(B)/(A)%	54	52	53	54	49	49	47	47	46	47	48	49	49	49	49

注）1. 瀬戸内海関係は 13 府県の計
2. 昭和 55 年までは従業員 1 人以上の事業場の出荷額であるが、昭和 60 年以降は 4 人以上の事業場の出荷額である。
3. 「食料品」は「食料品製造業」と「飲料・たばこ・飼料製造業」とを合計したものである。
4. 平成 23 年～平成 25 年の瀬戸内海関係の「石油製品・石炭製品製造業」は、徳島県の秘匿措置分を含まない値である。
5. 平成 27 年の瀬戸内海関係の「石油製品・石炭製品製造業」は、広島県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県、大分県の秘匿措置分を含まない値である。

出典：平成 26 年以前、平成 28 年：「工業統計表」（経済産業省）
平成 27 年：「経済センサス - 活動調査」（総務省・経済産業省）



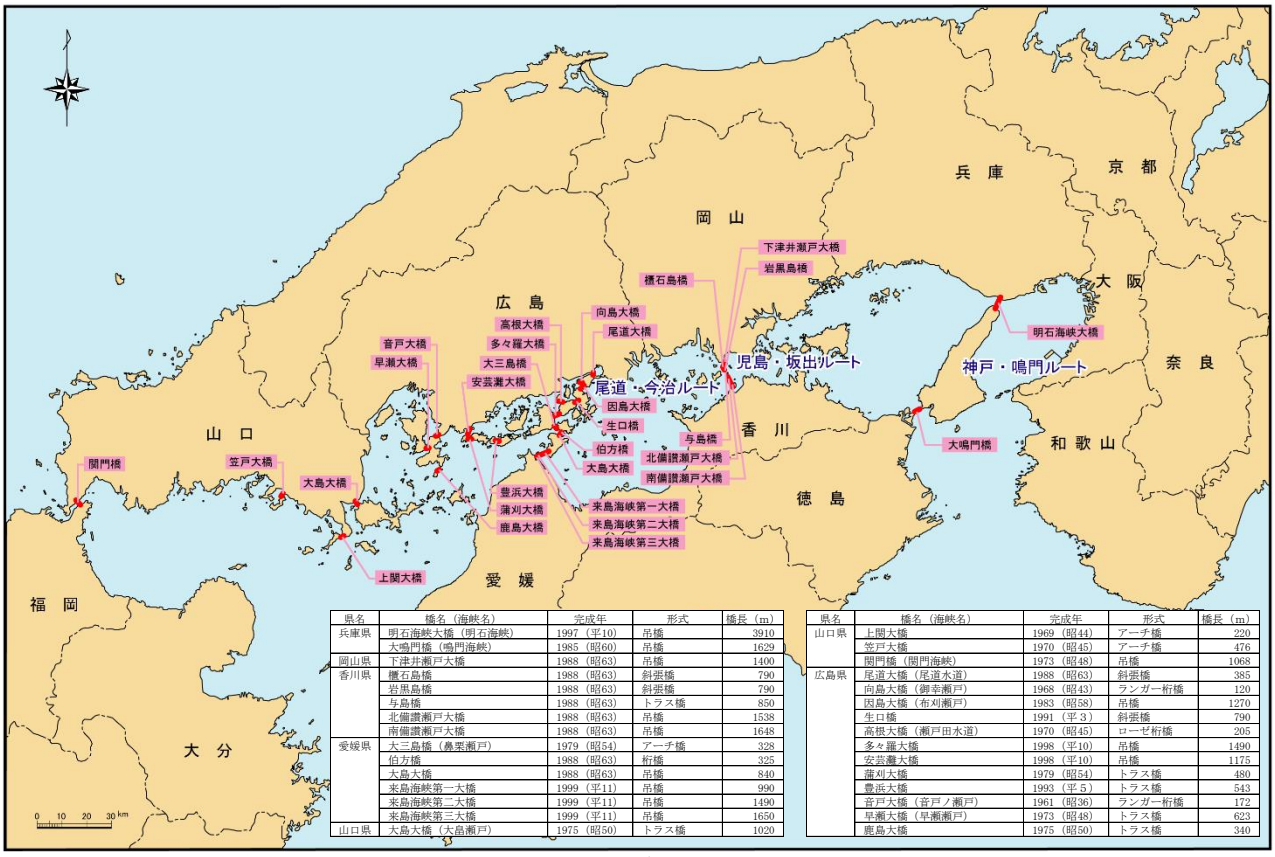
注）平成 30 年 12 月末現在
出典：各電力会社のホームページより作成

図 2－3 発電所の位置及び出力

2 産業の現況

瀬戸内海では、高度経済成長期にコンクリート骨材や埋立に使用する膨大な量の海砂利が採取されていたが、海底地形や底質が変化し生態系への悪影響が懸念されたため、平成 10 年に広島県で採取が全面禁止されたのを皮切りに瀬戸内海沿岸 11 府県で禁止措置が取られてきた。平成 20 年度以降の瀬戸内海海域の海砂利採取については、大分県における航路浚渫に伴う海砂利採取以外は実施されていない。

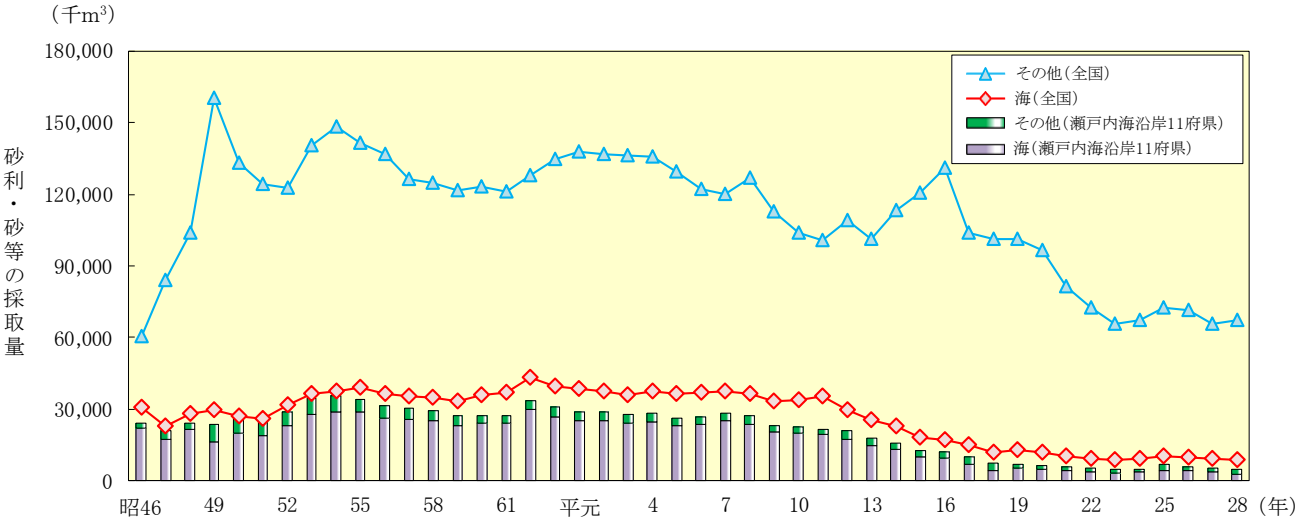
また、これらの産業における基盤となる発電所及び長大橋の設置状況を図 2－3、図 2－4 に示す。



県名	橋名（海峡名）	完成年	形式	橋長（m）
兵庫県	明石海峡大橋（明石海峡）	1997（平10）	吊橋	3910
	大鳴門橋（鳴門海峡）	1985（昭60）	吊橋	1629
岡山県	下津井瀬戸大橋	1988（昭63）	吊橋	1400
香川県	櫃石島橋	1988（昭63）	斜張橋	790
	岩黒島橋	1988（昭63）	斜張橋	790
	与島橋	1988（昭63）	トラス橋	850
	北備讃瀬戸大橋	1988（昭63）	吊橋	1538
	南備讃瀬戸大橋	1988（昭63）	吊橋	1648
愛媛県	大三島橋（鼻栗瀬戸）	1979（昭54）	アーチ橋	328
	伯方橋	1988（昭63）	桁橋	325
	大島大橋	1988（昭63）	吊橋	840
	来島海峡第一大橋	1999（平11）	吊橋	990
	来島海峡第二大橋	1999（平11）	吊橋	1490
	来島海峡第三大橋	1999（平11）	吊橋	1650
山口県	大島大橋（大畠瀬戸）	1975（昭50）	トラス橋	1020

県名	橋名（海峡名）	完成年	形式	橋長（m）
山口県	上関大橋	1969（昭44）	アーチ橋	220
	笠戸大橋	1970（昭45）	アーチ橋	476
	関門橋（関門海峡）	1973（昭48）	吊橋	1068
広島県	尾道大橋（尾道水道）	1988（昭63）	斜張橋	385
	向島大橋（御幸瀬戸）	1968（昭43）	ランガー桁橋	120
	因島大橋（布刈瀬戸）	1983（昭58）	吊橋	1270
	生口橋	1991（平３）	斜張橋	790
	高根大橋（瀬戸田水道）	1970（昭45）	ローゼ桁橋	205
	多々羅大橋	1998（平10）	吊橋	1490
	安芸灘大橋	1998（平10）	吊橋	1175
	蒲刈大橋	1979（昭54）	トラス橋	480
	豊浜大橋	1993（平５）	トラス橋	543
	音戸大橋（音戸ノ瀬戸）	1961（昭36）	ランガー桁橋	172
	早瀬大橋（早瀬瀬戸）	1973（昭48）	トラス橋	623
	鹿島大橋	1975（昭50）	トラス橋	340

図 2－4 瀬戸内海の主な長大橋



注）1.「砂利」とは、砂利、砂、玉石、玉石砕石をいう。
2.「その他」とは、河、山、陸、その他の砂利の合計である。「海」は海砂利を表す。
3. 山口県、福岡県及び大分県の「海砂利」採取量については瀬戸内海海域以外を含む。
出典：砂利採取業務状況報告書集計表（経済産業省、国土交通省、平成 30 年９月）より作成

図 2－5 瀬戸内海における砂利・砂等の採取量の推移

表 2－5 瀬戸内海沿岸 11 府県における砂利の採取状況

（単位：千m³）

項目 / 年度	海			その他			合計		
	11府県計（A）	全国（B）	（A）/（B）（%）	11府県計（A）	全国（B）	（A）/（B）（%）	11府県計（A）	全国（B）	（A）/（B）（%）
昭和46	22,144	30,578	72	2,284	60,428	4	24,428	91,006	27
50	28,133	34,418	82	7,310	119,380	6	35,443	153,798	23
55	28,727	38,936	74	5,586	141,322	4	34,321	180,268	19
58	25,021	34,966	72	4,538	124,611	4	29,558	159,577	19
60	24,093	35,755	67	3,203	123,072	3	27,296	158,827	17
61	24,356	36,821	66	3,191	120,947	3	27,547	157,768	17
62	29,719	43,529	68	4,115	127,637	3	33,834	171,166	20
63	27,056	39,400	69	3,897	134,590	3	30,953	173,990	18
平成元	25,512	38,541	66	3,538	137,871	3	29,050	176,412	16
2	25,491	37,751	68	3,382	136,676	2	28,873	174,427	17
3	24,254	35,802	68	3,445	136,058	3	27,699	171,860	16
4	24,904	37,481	66	3,350	135,937	2	28,254	173,418	16
5	23,179	36,634	63	3,121	129,252	2	26,300	165,886	16
6	23,945	37,091	65	3,000	122,291	2	26,945	159,382	17
7	25,152	37,794	66	3,283	119,941	3	28,435	158,969	18
8	23,913	36,664	65	3,588	127,020	3	27,501	163,684	17
9	20,395	33,429	61	3,009	112,718	3	23,404	146,147	16
10	19,902	33,780	59	2,699	103,696	3	22,601	137,476	16
11	19,281	35,373	55	2,125	100,544	2	21,407	135,917	16
12	17,399	29,957	58	3,678	108,951	3	21,078	138,907	15
13	14,940	25,385	59	2,863	101,123	3	17,805	129,373	14
14	13,213	23,098	57	2,848	113,180	3	16,061	136,278	12
15	9,881	18,125	55	2,834	120,437	2	12,715	138,562	9
16	9,435	17,260	55	2,676	130,844	2	12,111	148,104	8
17	7,072	15,004	47	2,929	103,788	3	10,001	118,792	8
18	4,628	12,003	39	2,651	101,148	3	7,279	113,151	6
19	5,160	13,151	39	1,826	101,044	2	6,985	114,194	6
20	4,931	11,928	41	1,720	96,534	2	6,651	108,462	6
21	4,309	10,295	42	1,674	81,504	2	5,984	91,799	7
22	3,687	9,515	39	1,901	72,634	3	5,587	82,149	7
23	3,420	9,067	38	1,412	65,549	2	4,832	74,616	6
24	3,640	9,166	40	1,503	67,148	2	5,143	76,314	7
25	4,302	10,395	41	2,452	72,292	3	6,753	82,687	8
26	4,311	10,062	43	1,840	71,373	3	6,151	81,435	8
27	3,846	9,471	41	1,536	65,971	2	5,383	75,442	7
28	3,053	8,817	35	1,941	67,199	3	4,995	76,016	7

注）1.「砂利」とは、砂利、砂、玉石、玉石砕石をいう。
2.「その他」とは河、山、陸、その他の砂利の合計である。「海」は海砂利を表す。
3. 山口県、福岡県及び大分県の「海砂利」採取量については瀬戸内海海域以外を含む。
4. 四捨五入の関係で、合計が一致しない場合がある。
出典：砂利採取業務状況報告書集計表（経済産業省、国土交通省、平成 30 年９月）より作成

表 2－6 府県別砂利採取量（平成 28 年度）

（単位：千m³）

項目	大阪	兵庫	和歌山	岡山	広島	山口	徳島	香川	愛媛	福岡	大分
海	0	0	0	0	0	631	0	0	0	2,324	98
その他	134	83	413	83	12	356	320	41	47	110	342
計	134	83	413	83	12	987	320	41	47	2,434	439

注）1.「砂利」とは、砂利、砂、玉石、玉石砕石をいう。
2.「その他」とは、河、山、陸、その他の砂利の合計である。「海」は海砂利を表す。
3. 山口県、福岡県及び大分県の「海砂利」採取量については瀬戸内海海域以外を含む。
4. 四捨五入の関係で、合計が一致しない場合がある。
出典：砂利採取業務状況報告書集計表（経済産業省、国土交通省、平成 30 年９月）より作成

2.3 水産業の推移

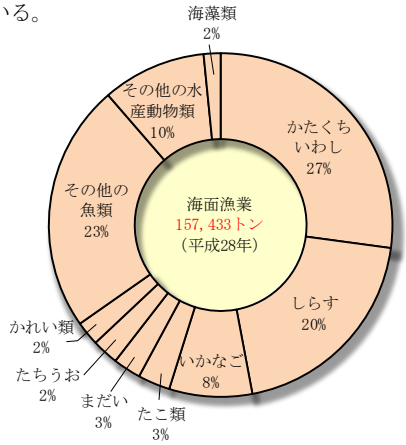
瀬戸内海は瀬戸と灘が交互に連続する多様な地形を有している閉鎖性海域であり、また、多数の河川が流入していることにより栄養塩が比較的豊富であるため、生産性の高い海域である。水産総合研究センター瀬戸内海区水産研究所によると瀬戸内海で確認された魚種数は平成22年(2010年)時点で739種とされている。

平成28年の瀬戸内海注)における海面漁業魚種別生産量、海面養殖業魚種別生産量の構成を図2−6、図2−7に示す。また、瀬戸内海における昭和40年からの漁業生産量及び魚種別生産量の推移を図2−8，図2−9に示す。

平成28年における漁業生産量は約33万トンである。海面漁業生産量は約16万トン、海面養殖業生産量は約17万トンであり、海面養殖業生産量が海面漁業生産量の約1.1倍となっている。

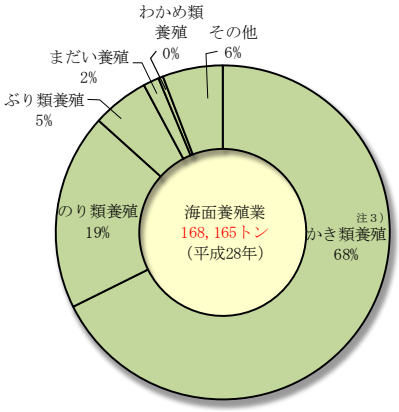
瀬戸内海における漁業生産量及び海面漁業生産量は、昭和60年頃に最大となり、その後減少する傾向にある。この一因として藻場・干潟の減少等により魚介類の生息環境が悪化していることがあげられ、魚種別には「まいわし」、「かたくちいわし」、「いかなご」、「あさり類」の生産量が昭和60年代から急減している。海面養殖業生産量は昭和63年頃までは増加傾向にあり、近年では、概ね横ばいに推移している。

注）漁業法による瀬戸内海の範囲は、瀬戸内海環境保全特別措置法によって定められた海域から、豊後水道、響灘を除く海域となっている。



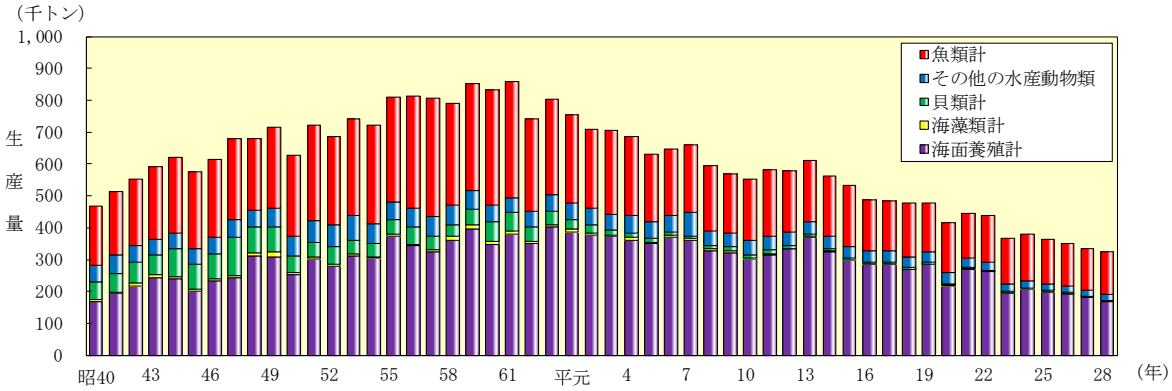
注）四捨五入の関係で各項目の%の合計は100%とならない。

図2−6 海面漁業魚種別生産量構成



注）1. 秘匿措置分の兵庫県を除く瀬戸内海沿岸10府県の値である。
2. 兵庫県以外の秘匿措置分については「その他」にまとめて記載した。
3. 「かき類養殖」は「むき身」を含まない値である。

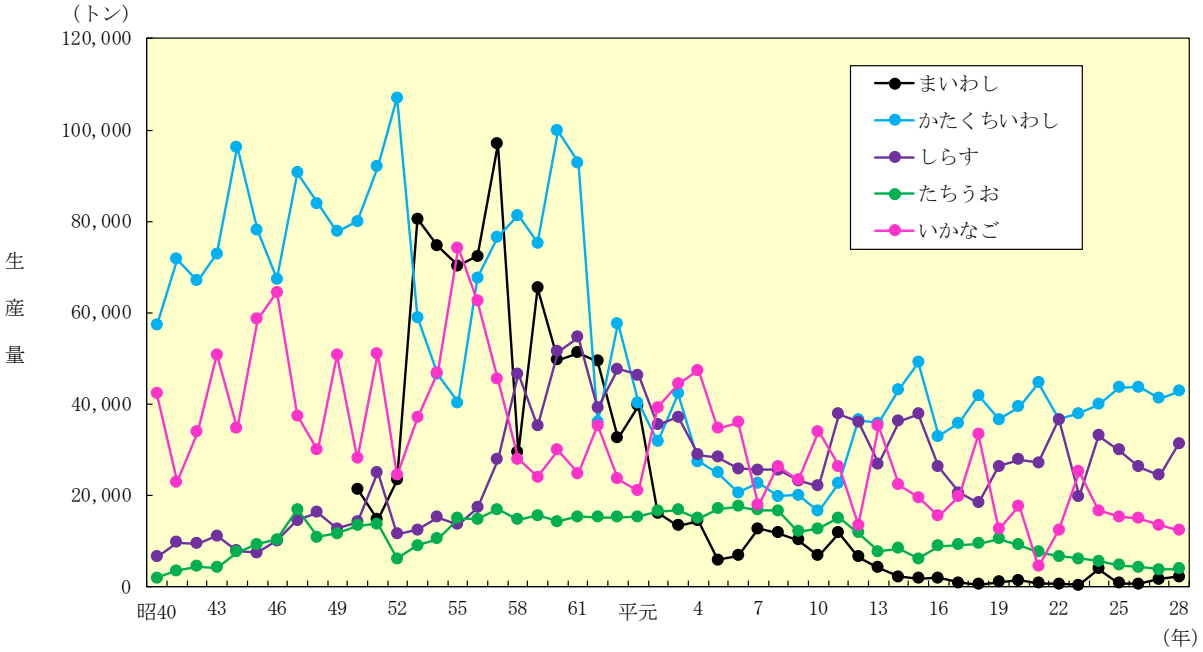
図2−7 海面養殖業魚種別生産量構成

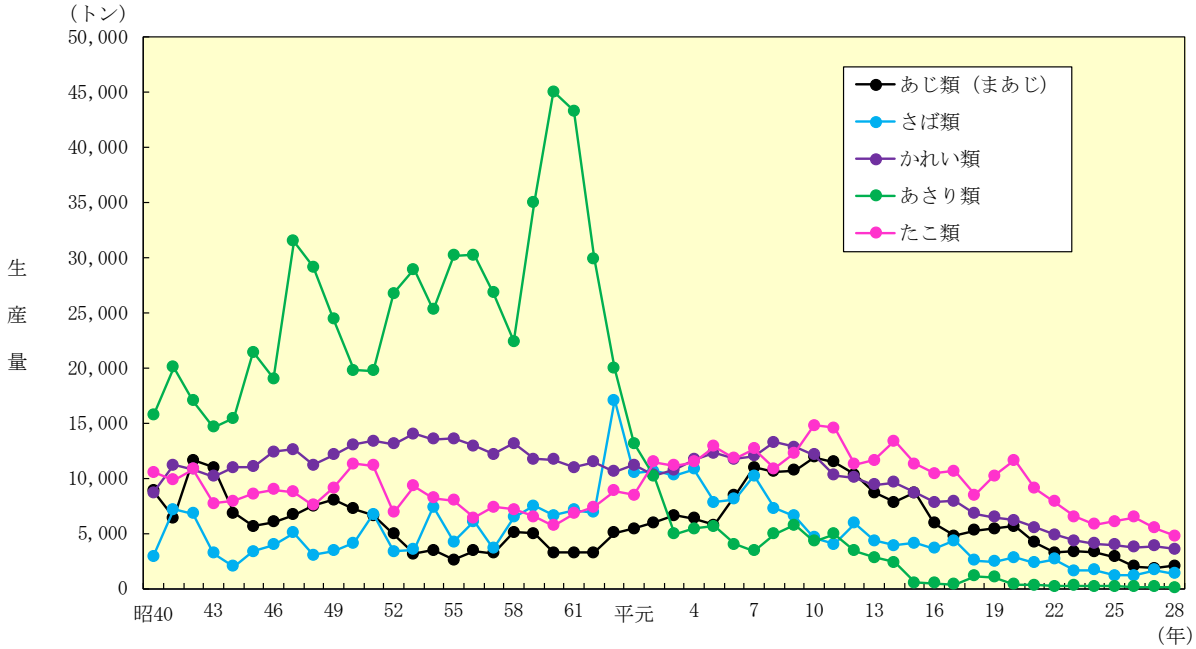


注）1. 平成23、24、26～28年の「海面養殖計」は兵庫県の秘匿措置分を含まない値である。
2. 平成25年の「海面養殖計」は兵庫県と和歌山県の秘匿措置分を含まない値である。

出典：平成17年以前：「瀬戸内海区及び太平洋南区における漁業動向」（農林水産省中国四国農政局統計部）
平成18年、19年：農林水産省近畿農政局統計部資料
農林水産省中国四国農政局統計部資料
農林水産省九州農政局統計部資料
平成20年以降：農林水産省資料

図2−8 瀬戸内海における漁業生産量の推移





注）1.「あじ類（まあじ）」は、昭和52年までは「あじ類」、昭和53年以降は「まあじ」となっている。
2. 平成20年の「まいわし」は、広島県の秘匿措置分を含まない値である。
3. 平成21年の「まいわし」、「かたくちいわし」は、岡山県の秘匿措置分を含まない値である。
4. 平成24年の「あじ類（まあじ）」、「さば類」は、岡山県の秘匿措置分を含まない値である。
5. 平成25年の「さば類」は、岡山県の秘匿措置分を含まない値である。
6. 平成27年の「しらす」は、徳島県の秘匿措置分を含まない値である。
7. 平成28年の「しらす」は、徳島県及び香川県の秘匿措置分を含まない値である。

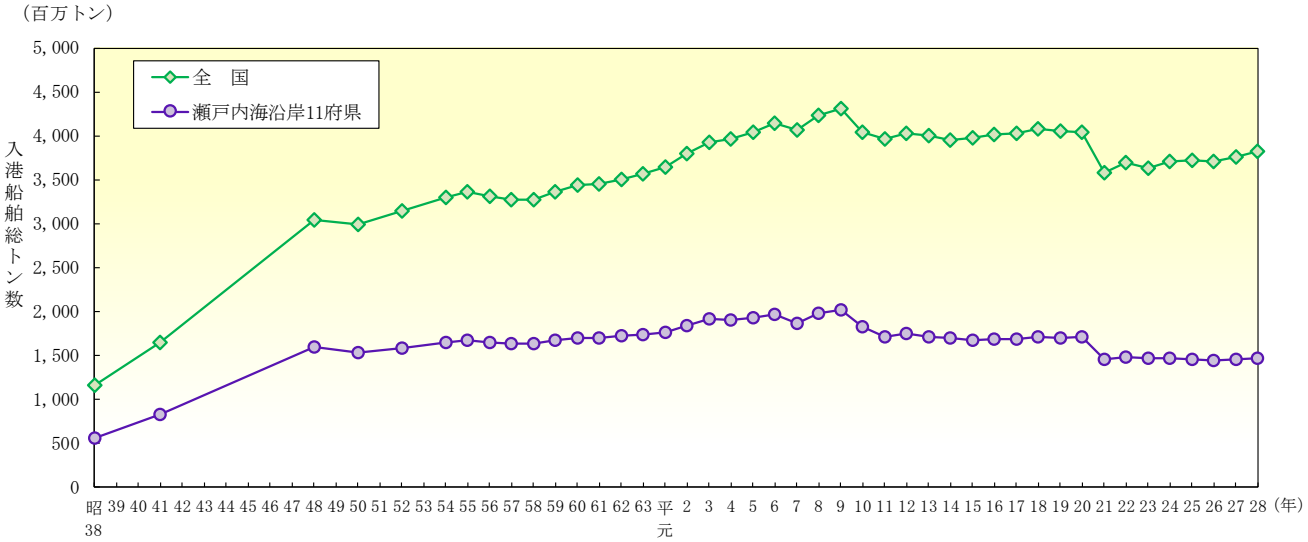
出典：平成17年以前：「瀬戸内海区及び太平洋南区における漁業動向」（農林水産省中国四国農政局統計部）
平成18年、19年：農林水産省近畿農政局統計部資料
農林水産省中国四国農政局統計部資料
農林水産省九州農政局統計部資料
平成 20 年以降：農林水産省資料

図 2－9 瀬戸内海における魚種別生産量の推移

2.4 海運等の現況

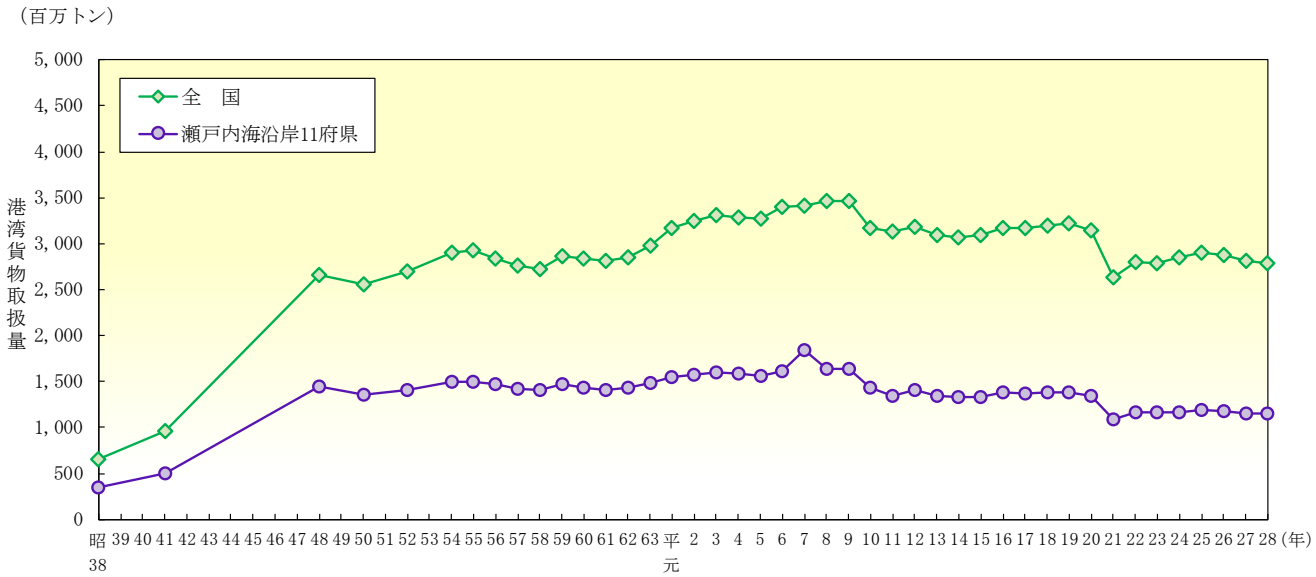
瀬戸内海における平成 28 年の入港船舶総トン数、港湾貨物の取扱量は、全国の約 38～41%の割合を占めている（図 2－10、2－11）。入港船舶総トン数、港湾貨物の取扱量はともに、昭和 38 年から昭和 48 年にかけて２倍以上に急増しその後、ほぼ横ばいで推移している。

また、平成 29 年の主要狭水道における１日平均の通航船舶隻数は、瀬戸内海で最も多かった明石海峡で 794 隻となっており、東京湾口の浦賀水道における 410 隻に比較して多い（図 2－13）。府県別入港船舶・貨物利用状況と瀬戸内海の港湾・航路を表 2－7、図 2－12 に示す。



出典：「港湾統計（年報）」（国土交通省）

図 2－10　瀬戸内海沿岸 11 府県における入港船舶総トン数の推移



出典：「港湾統計（年報）」（国土交通省）

図 2－11　瀬戸内海沿岸 11 府県における港湾貨物取扱量の推移

表 2－7 瀬戸内海沿岸 11 府県における府県別入港船舶、貨物利用状況

府県等	入港船舶数（千隻）			入港船舶総トン数（百万トン）			港湾貨物取扱量（百万トン）		
年度	(H28)	(H27)	(H26)	(H28)	(H27)	(H26)	(H28)	(H27)	(H26)
全国	3,511	3,596	3,719	3,831	3,755	3,711	2,782	2,810	2,881
大阪	69	67	71	195	186	192	160	154	164
兵庫	190	196	201	273	274	271	187	188	185
和歌山	46	51	51	46	47	51	41	41	45
岡山	107	110	121	116	114	118	105	102	111
広島	517	527	541	180	178	178	111	113	116
山口	133	135	135	109	115	109	110	116	112
徳島	9	11	17	22	25	24	17	18	18
香川	183	170	175	86	85	87	57	56	60
愛媛	207	218	221	97	97	95	70	76	76
福岡	105	107	110	219	212	196	170	171	175
大分	83	83	86	121	125	124	118	117	121
瀬戸内海	1,649	1,676	1,727	1,464	1,458	1,444	1,147	1,152	1,182
（対全国比%）	(47.0)	(46.6)	(46.4)	(38.2)	(38.8)	(38.9)	(41.2)	(41.0)	(41.0)

出典：「港湾統計（年報）」（国土交通省）

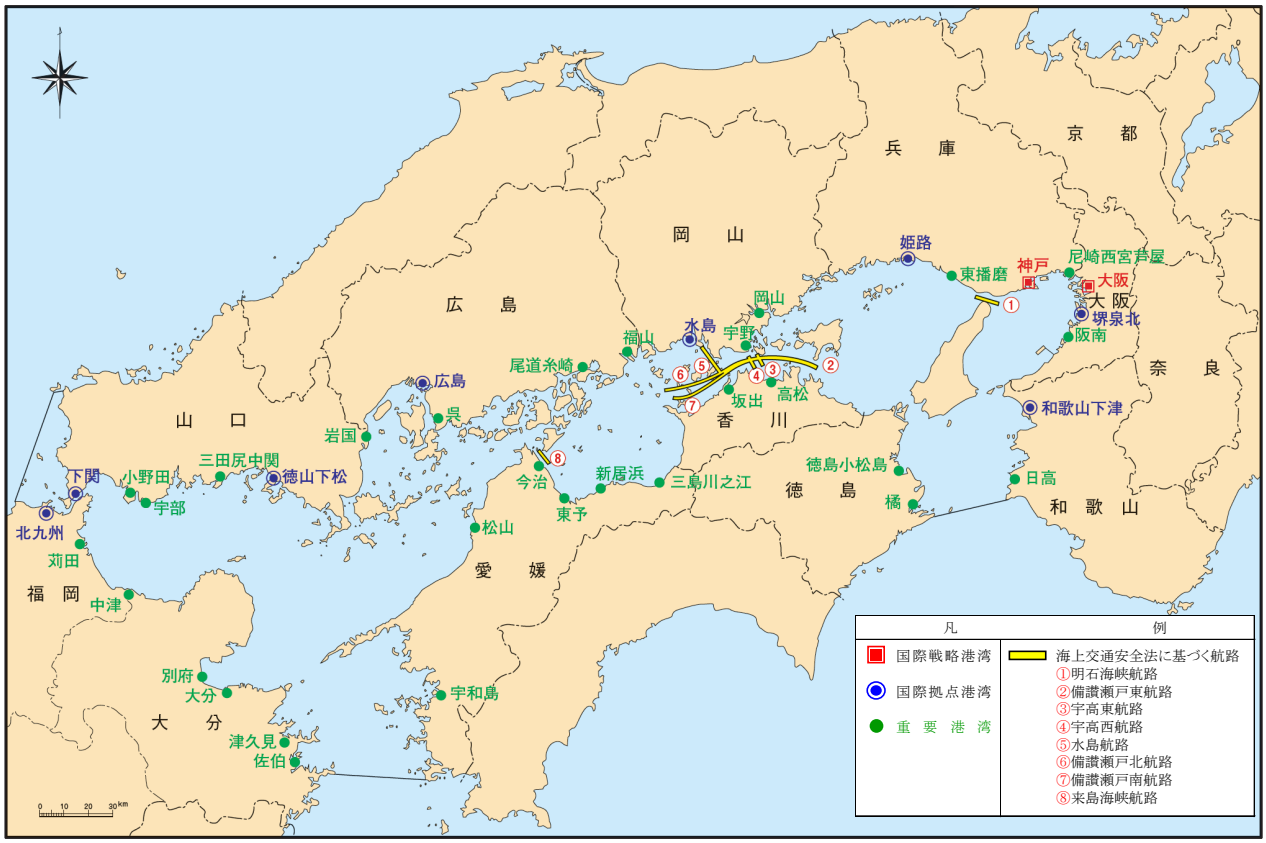
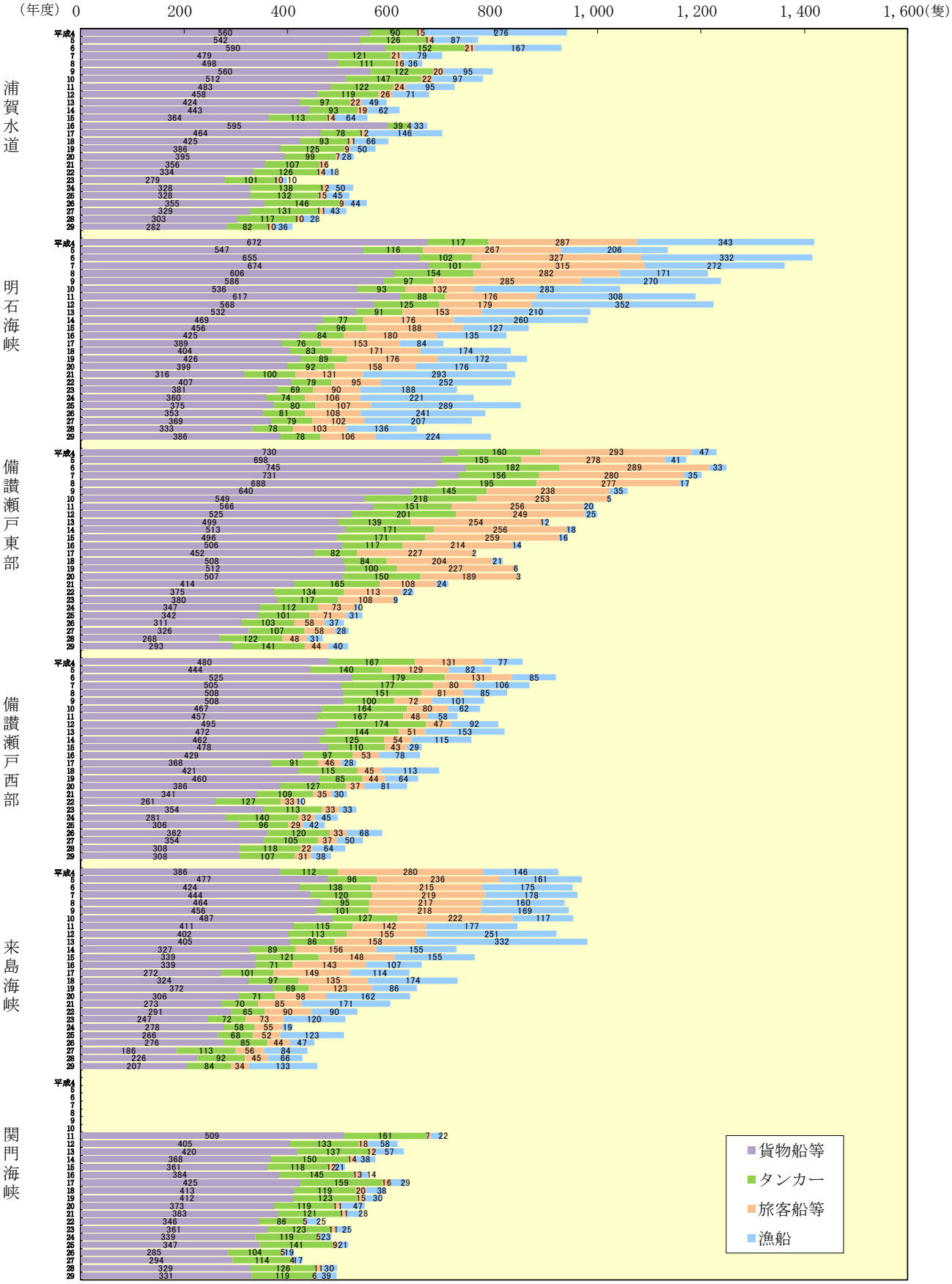


図 2－12 瀬戸内海の港湾・航路（平成 30 年 12 月末現在）

2 産業の現況



注）平成４年～10 年度の関門海峡の値は出典資料に掲載されていない。
出典：海上保安庁広報資料攀

図 2－13 主要狭水道別通航船舶の隻数の推移（1日平均）

表 2－8 航路別管制船舶通航状況（平成 29 年1月～12 月）

（単位：隻）

巨大船等種別 国籍別 ＼ 航路別	総計			巨大船 合計			巨大船 危険物積載船			巨大船 危険物積載船を除く巨大船			準巨大船 合計			準巨大船 危険物積載船			準巨大船 危険物積載船を除く巨大船			巨大船及び準巨大船でない危険物積載船			物件えい（押）航船		
	計	日本船	外国船	計	日本船	外国船	計	日本船	外国船	計	日本船	外国船	計	日本船	外国船	計	日本船	外国船	計	日本船	外国船	計	日本船	外国船	計	日本船	外国船
合計	117,766	63,018	54,748	21,803	2,642	19,161	4,995	833	4,162	16,808	1,809	14,999	72,344	42,445	29,899	1,161	71	1,090	71,183	42,374	28,809	21,631	15,973	5,658	1,988	1,958	30
浦賀水道	28,635	11,426	17,209	8,936	926	8,010	2,048	335	1,713	6,888	591	6,297	13,595	6,090	7,505	504	31	473	13,091	6,059	7,032	6,086	4,393	1,693	18	17	1
中ノ瀬	10,025	3,887	6,138	3,235	283	2,952	991	131	860	2,244	152	2,092	4,975	2,442	2,533	227	27	200	4,748	2,415	2,333	1,806	1,154	652	9	8	1
伊良湖水道	20,581	6,163	14,418	4,429	395	4,034	818	210	608	3,611	185	3,426	13,527	3,635	9,892	121	9	112	13,406	3,626	9,780	2,575	2,094	481	50	39	11
明石海峡	12,096	8,550	3,546	1,696	345	1,351	477	61	416	1,219	284	935	7,687	6,001	1,686	93	1	92	7,594	6,000	1,594	2,550	2,049	501	163	155	8
備讃瀬戸東	11,302	8,407	2,895	1,105	226	879	238	32	206	867	194	673	7,630	6,162	1,468	51	1	50	7,579	6,161	1,418	2,539	1,991	548	28	28	0
宇高東	45	40	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14	9	5	0	0	0	14	9	5	31	31	0	0	0	0
宇高西	42	31	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	21	11	10	0	0	0	21	11	10	21	20	1	0	0	0
備讃瀬戸北	5,539	3,884	1,655	693	142	551	147	30	117	546	112	434	3,744	2,936	808	36	0	36	3,708	2,936	772	1,086	790	296	16	16	0
備讃瀬戸南	5,563	4,099	1,464	471	91	380	63	2	61	408	89	319	3,877	3,075	802	33	1	32	3,844	3,074	770	1,202	920	282	13	13	0
水島	12,209	8,109	4,100	755	152	603	200	32	168	555	120	435	10,735	7,334	3,401	71	1	70	10,664	7,333	3,331	717	621	96	2	2	0
来島海峡	11,729	8,422	3,307	483	82	401	13	0	13	470	82	388	6,539	4,750	1,789	25	0	25	6,514	4,750	1,764	3,018	1,910	1,108	1,689	1,680	9

注）準巨大船とは、海上交通安全法第 22 条第 2 号の船舶をいう。
出典：「海上保安統計年報」（海上保安庁、第 68 巻）